



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.306

2022/10/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. トラフズクの巣

02. 空を切る虫網



今月の一枚



「トラフズク」

表紙写真・文／町田善康

フクロウの仲間のトラフズクは、主に夏鳥として北海道に渡来し、平地の防風林や神社の林などに暮らしています。繁殖にはカラスの仲間や猛禽類^{もうきん}の古巣を使い、主な食べ物はネズミの仲間です。

鳴き声は独特で、「ウー」「オウー」とおじさんのうめき声のようで、巣立ちを迎えたヒナは「ギャン」と犬のように鳴きます。夜の森の中でこの声を聞くと、ビックリします。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろ町4公園の草花図鑑」 ～10月23日(日)

ロビー展「すごい標本!すごい資料!」 ～10月5日(水)

美幌博物館開館記念日 10月2日(日)

博物館講座(自然編)「古梅の森でコケ観察」 10月8日(土)

博物館講座(自然編)「ポータブル魚道を使ってみよう」 10月22日(土)

プチ工房「ラップブレスレット」 10月28日(金), 10月29日(土)

Information. 参加者募集

博物館開館記念日 無料工作「コウモリの蝶ネクタイ」

●10/2(日)9:30-17:00 ①10:00開始 ②11:00開始 ③14:00開始 ④15:00開始 ●美幌博物館1階講座室, 修理室 ●参加費 無料, マスク ●美幌博物館へ電話申込み(-10/1)。どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)。各回20名で締切。

博物館講座(自然編)「ポータブル魚道を使ってみよう」

●10/22(土)9:30-12:00 ●美幌町豊幌川(集合解散はみどりの村大駐車場) ●参加費100円(保険代), 長袖, 長ズボン, 帽子, タオル, 軍手, 胴長(お持ちでない方は足のサイズをお知らせください) ●高橋直己氏(香川高等専門学校) ●美幌博物館へ電話申込み(-10/19)。対象は中学生以上～一般(小学生以下は保護者同伴)。定員25名で締切。※荒天時は中止。本講座はほっく一基金の助成を受けて行っております。

プチ工房「ラップブレスレット」

●10/28(金), 29(土) ①10:00開始, ②13:00開始, ③14:30開始, 所要時間60分 ●美幌博物館1階講座室 ●参加費400円, マスク ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-10/27)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 発熱がある, あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは, 内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により, 一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上, ご参加ください。

【駐車場のご案内】

10/31(月)まで、駐車場整備工事のため正面駐車場はご利用できません。
階段下の大駐車場をご利用ください。

今月の休館日

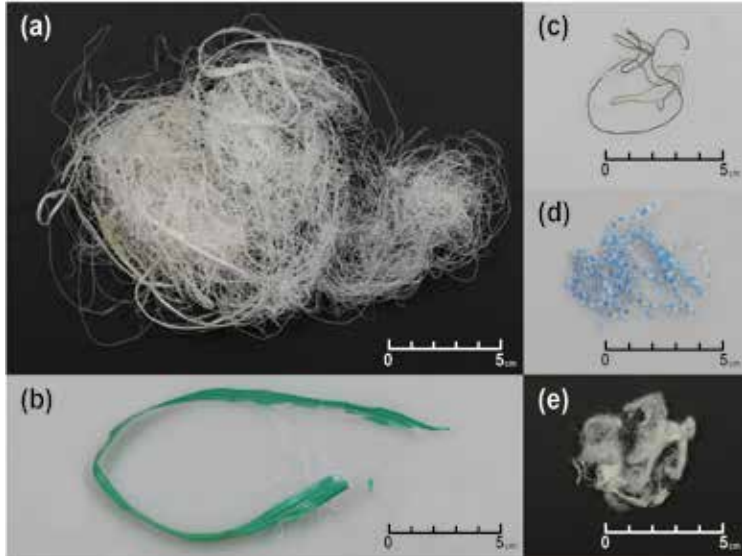
3日, 11日
17日, 24日
31日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

トラフズク の巣

写真・文／町田善康



トラフズクは、春から夏にかけて繁殖のために渡来し、平地の防風林や神社などの林に暮らします。北海道では、千歳市、帯広市などで繁殖の記録があります。繁殖には、カラスの仲間や猛禽類の古巣を使います。実は、2020（令和2）年、このトラフズクが、美幌町内で初確認され、その後の調査によって、繁殖していることがわかりました。しかし、ヒナが生まれるとすぐに、ハシブトガラスの妨害にあって、巣を放棄してしまいました。繁殖の失敗は非常に残念なことですが、美幌町で初めて見つかったトラフズクについて、巣の大きさや材料、巣の周りの環境について、もう少し詳しく調べることにしました。というのも、日本ではトラフズクの繁殖について、全く記録がなかったからです。

まず、繁殖には、トビの古巣を使い、ヨーロッパなどで行われている先行研

究に比べて、非常に高い場所に巣がかけられていました。巣の周辺には、開けた場所があり、夜間にはこうした場所を訪れ、探餌（たんじ）していました。

一方、巣の中を詳しく見てみると、ブルーシートの切れ端や繊維状のプラスチックが発見されました（写真：a 白い紐、b 緑の紐、c その他の紐、d ブルーシートの破片、e 綿状の素材）。海鳥の研究では、ヒナや親鳥が巣内にあるプラスチックに絡まって死亡する事例があります。森に住む鳥では、今まで詳しく知られていませんでしたが、今後大きな問題になっていくと考えられます。そのため、私たちは「北海道東部におけるプラスチック素材が入ったトラフズク *Asio otus* の営巣記録」というタイトルで、日本野鳥の会が発行する研究誌 *Strix* に論文を発表しました。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

空を切る 虫網

写真・文／城坂結実



美幌町内では、小中学生が夏休みを満喫していた7月下旬。私も夏休みの子どもよろしく、町内の公園で虫網を振っていました。ただ一つ子どもと違ったのは、私の虫網がひらひら舞うチョウや、木にとまるセミに向かわず、右へ左へと空^{くう}を切るように動いていたことでしょうか。

その時、私が狙っていたのは、体長5ミリ以下のハエの仲間。小さなハエの中には、植物と強い関わりを持つ種類がいることが知られており、公園の植物にどんなハエがやってきているのか、試しに調べてみようと思ったのです。ただし体長5ミリ以下のハエですから、捕まえようと思っても、姿を確認してから捕るという訳にはいきません。そんなわけで、傍^{はた}から見ると何もないような空^{くう}に向かって、やたらと虫網を振ることになったわけです。

虫網で捕まえたハエの仲間は博物館

に持ち帰り、標本にした後、顕微鏡写真を専門家に見てもらいました。その結果、アシナガバエ科、ショウジョウバエ科、シマバエ科、キモグリバエ科、ノミバエ科、ミギワバエ科、ハモグリバエ科、キノコバエ科の8科が確認でき、予想以上に色々なハエがいることが分かりました。8科もいると色や姿形も様々で面白く、しばらく顕微鏡から目が離せなくなるほどでした。

ちなみにハエの仲間は昆虫ですが、^{そうしもく}双翅目というグループに属していて翅は2枚しかありません。2枚の後翅^{こうし}は形を変え、写真（矢印）のような「^{へいきんこん}平均棍」という器官になっています。ハエの仲間を顕微鏡で観察する際は、ぜひチェックしてみてください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・松田真莉子

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



20 年ほど前のことです。コラムに登場するハエの専門家から、お土産と称してハエの幼虫の素揚げをいただきました。海老のような風味でおいしかったです。(城坂)